

CONTENTS

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1 ●令和3年度(2021年度)立正大学FD活動について | 5 ●令和3年度(2021年度)授業改善アンケート実施概要 |
| 2~5 ●令和3年度(2021年度)ベスト・クラス賞 受賞科目紹介 | 6 ●令和4年度(2022年度)全学FD研修実施予定 |

令和4年度(2022年度)立正大学FD活動について

立正大学長 寺尾 英智

本年度の活動テーマは、「教育の質保証に向けた取り組みの実質化」です。大学における教育の質保証に資する取り組みとして、FD活動の重要性は年々高まりを見せていることは、いうまでもありません。このテーマは、令和元年から継続する取り組みでもあります。

具体的な研修として前期においては、全学教育推進センター主催では、教学マネジメント推進や認証評価の実施等、外部環境変化の要点を整理するとともに、外部アセスメントの活用を取り上げて行いました。学修成果の達成度の検証を行う手法の一つとして、GPS-Academicを導入します。そこで、受検率の向上と、その効果的な活用についても取り上げました。本年は大学評価受審があることから、自己点検・評価委員会主催では、第三期の認証評価を踏まえた大学の取り組みを前提に、認証評価制度や内部質保証をめぐる今後の動向について取り上げました。地球環境科学部主催になる、文理融合型データサイエンス授業構築の実践例に関する研修も、全学に解放して実施されました。文部科学省により創設された「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル、応用基礎レベル)」の認定を視野に置いた、具体的な授業実践例とともに、マネジメント的な側面についても取り上げられました。

後期においても、図書館主催によるインストラクショナルデザイン(学習者の学習効果を最大化するための設計を行うこと)に関するもの、情報環境基盤センター



主催によるセキュリティー教育に関するもの、障害学生支援協議会主催による障害者差別解消法改正法施行を見据えた障害者支援の現在の到達点と今後の課題に関するもの、入試センター主催による高大接続を踏まえた入試制度に関するものなどが予定されています。

各学部・研究科内においても、それぞれに独自の研修や取り組みが日々進められていることはいうまでもありません。未だに収束しない新型コロナウイルス禍にあって、授業形態も大きな影響を受け、変革もありました。アフターコロナを見据える中で、すべての教員と職員が、それぞれの立場で創意工夫していることに光をあて、その成果であるグッドプラクティスを積極的に共有していくことを一段と進めたいと考えています。

令和3年度(2021年度)ベスト・クラス賞 受賞科目紹介 教員インタビュー

〈概要〉

2021年度授業改善アンケート結果より、ベスト・クラス賞を受賞した4名の先生に、授業設計のポイントや工夫をお伺いしました。



鈴木 パーカー 明日香 先生

(地球環境科学部講師)

受賞科目名：「大気環境シミュレーション」
(対面&オンデマンド型)

—鈴木先生、この授業の目的や概要、授業の流れについてお聞かせください

この科目の目的は気象モデルの基本的な仕組みを理解することです。気象モデルとはスーパーコンピューターなどで大気の状態や動きをシミュレートする巨大な計算プログラムのことです。その気象モデルから得られる予測情報は日々の天気予報の基になっています。授業では気象モデルの「中身」である大気の物理法則を記述する式を紹介して、これらの式をコンピューター上ではどのように解いているのかを学生に理解してもらうことを目的としています。講義の形式は基本的に座学が中心ですが、学生が「パソコンで式を解く」ことを実感してもらえるように、気象モデルで用いられている式の簡易版をExcelで解く演習も設けています。

—授業構成のポイントや工夫されたことについてお聞かせください。また学生の反応はいかがでしたでしょうか

先ほど申し上げたように、この科目は座学と演習を組み合わせることで進行します。2021年度Ⅱ期の授業は第1週から第3週は対面で、続く第4週～第10週はオンライン



で、そして第11週～第15週は対面という授業形態でした。このような変則的な授業形態に合わせて座学はオンライン中に行い、演習は対面授業中に実施できるように講義スケジュールを変更しました。

オンライン授業はオンデマンド動画とそれに対するクイズやレポートなどのウィークリー課題という形で展開しました。講義動画は30分程度に収めて、学生がノートを取りながら90分程度で1回の講義を終えられるように配慮をしました。動画は講義スライドに文字やイラストを書き込みながら解説を行い、これを自撮り動画と合わせて録画するというスタイルで作成しました。講義スライドはイラストや図を多く使用するのですが、学生がこれらを印刷してノートに貼ることができるようにスライドデータも学生に公開しました。毎週動画を作成するのは本当に大変でしたが、学生からは動画が分かりやすく、何度も見返せるので理解が深まるといった好意的なコメントが寄せられました。

Excelを用いた演習は、座学で学んだ式の解法を実体験してもらうことで理解度が深まると同時に知識を定着させるのにとっても有効であったと感じています。演習は学生が自由に作業できる時間を取れるよう工夫をして学生同士の助け合いを促しました。オンライン授業が開けた後だったこともあって演習を通じて学生同士が交流するきっかけになったと感じています。

—今後授業を実施する上での課題や将来の展望についてお聞かせください

この科目はもともと座学と演習の組み合わせだったことから、当時のオンライン授業と対面授業を行ったり来たりする変則的な状況にも対応することができました。結果として座学はオンデマンド動画、演習は対面で行うことになりましたが、これがこの科目にとっては最適な開講形態だったのではないかと感じています。

2022年度はほぼ全ての授業が対面に戻っていますが、科目によってはオンデマンド形式や対面授業をリアルタイム配信するハイブリッド形式の開講も可能とすることによって、学生が学びやすいスタイルを選択できるようになると良いのではないかと感じています。

—ありがとうございました



内藤 誼人 先生 (心理学部客員教授)

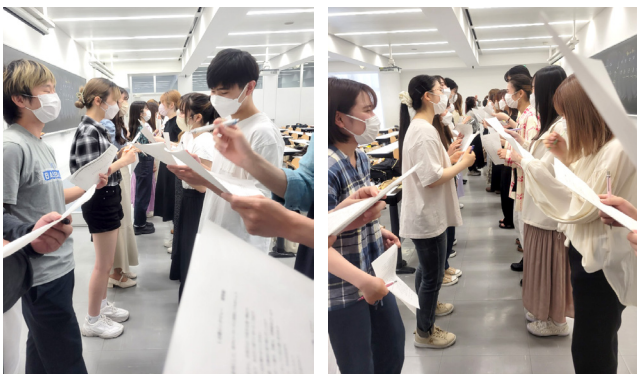
受賞科目名：「対人スキルトレーニング A」
(対面)

—内藤先生、この授業の目的や概要、授業の流れについてお聞かせください

この授業は社会人には必須と考えられている対人スキルを身につけることを目的としています。対人スキルとは物事をわかりやすく説明できることや、自分の意見をうまく伝えられること、また魅力的な自己アピールができることなどを指します。授業では毎回まず15分から20分程度の対人心理学に関する座学を行い、残りの時間はすべてトレーニングの時間としています。トレーニングは4人1組のグループワークとしてトレーニングの内容はほぼ毎回変えています。

—授業構成のポイントや工夫されたことについてお聞かせください。また学生の反応はいかがでしたでしょうか

対人スキルを向上させるトレーニングには、いろいろなトレーニングが想定できますが、講義の最後に行われる授業評価を参考にして学生に好意的に評価されたトレーニングだけを残すようにしています。10年ほど同じ講義を担当させていただいているので、学生に



とって取り組んでいて面白くてタメになると感じてもらえるトレーニングだけを残せているのではないかと考えています。特に身振りだけでメッセージを伝えるトレーニングは学生も意欲的に取り組んでいるように感じます。

トレーニング時には学習意欲を向上させるために、上手くできた人や積極的に取り組んでいた人に1枚5点となるボーナスポイントの紙を渡すようにしています。そのポイントがたくさん集まっていれば、試験の成績が仮に0点でも成績はSとしているので学生も意欲的に取り組んでくれているように思います。

—今後授業を実施する上での課題や将来の展望についてお聞かせください

学部向けの講義であることや、必修や選択必修ではないのですが、2年生を中心に多くの学生が履修してくれているということもあって、初級から中級レベルくらいのトレーニングをメインに講義を構成しているのですが、個人的な要望としてはもう少し中級から上級のトレーニングも組み込みたいと考えています。もしくは履修者の多くが2年生であるので、3年生を対象にした「対人スキルトレーニング・上級クラス」とか、科目名を変えて「ビジネススキルトレーニング」のような講義も担当させていただけると嬉しいです。

—ありがとうございました



立石 展大 先生 (文学部非常勤講師)

受賞科目名：「伝承文学2」(対面)

—立石先生、この授業の目的や概要、授業の流れについてお聞かせください

この「伝承文学2」は、民間説話について考察するという授業になります。民間説話は口伝えが基本となるもので、授業では特に昔話に焦点を当てています。口伝えの話というのは語る人と聴く人の共感がとても大切ですが、それを伝える人々の文化を反映して話が変わっていきます。例えば、中国から日本に口頭で伝えられた昔話もありますが、両方の国で同じ話を伝えていても、やはり話の細部はそれぞれの文化を反映して変化していきます。その変化から背景にある文化を考察していくのがこの授業の目的です。授業では複数の具体的な昔話を取り上げ、それを伝える人々の生活文化を掘り下げています。

—授業構成のポイントや工夫されたことについてはいかがでしょうか

ほとんどの学生は学問として昔話を分析した経験がありません。そこで授業ではまず昔話を含めた民間説話の基本から解説をしていきます。初めて触れる分野を一から学ぶ点で学生にとってはとても取り組みやすいようで、これが内容理解に関するアンケート項目の評価に繋がっているのだと思います。また学生の理解度の確認という意味でも、授業中の質問に次の授業で答える取り組みをしています。

多くの学生は「桃太郎」や「かちかち山」、「猿蟹合戦」などの昔話に触れた経験を持っています。みんなが知っている昔話について、その文化的な背景を知ることが学生の知的好奇心を刺激するのだと思います。この点が新しい知識の獲得に関するアンケート項目の評価に結びついていると思います。例えば「シンデレラ」は有名ですね。これは西洋の話の印象が強いと思いますが、この話は早くから中国の唐代の漢籍に記録があって、中国でも口頭で伝承されています。また日本でも「米福栗福」という昔話として語られてきました。主人公の女性を助けてくれるのは、亡き母親の魂や身近な家畜であることも多いのですが、西洋では「魔女」、中国では「仙女」と語ることもあります。そして日本の場合には「山姥」が登場します。山で人を襲う山姥ですが、一方では女神の性格も窺わせます。これらの比較を足がかりにして、学生には日本の神や日本文化について考えてもらっています。こうしたことを視覚資料で解説したり、文字資料を読んだり板書をしたりとバランスを取って授業で展開できるよう心がけています。

—今後授業を実施する上での課題や将来の展望についてお聞かせください

現代では、口伝で昔話を聴くという機会はほぼありません。しかし、絵本やテレビアニメなどで描かれる昔話に触れる機会はまだまだあります。ただし聴く昔話と見る昔話では、話の伝わり方も変わります。伝統的な口伝の昔話は「死」を取り上げることも多いですが、口伝では人が死んでも血は流れません。「タヌキに殴られてお婆さんは死んでしまいました」と語れますが、絵本作りでは殺害場面の描き方に悩みます。場合によってはお婆さんは怪我をするだけで死なないこともあります。それはもちろん幼児教育から死を遠ざけようとする配慮もあるのですが、昔話には表現メディアによる変化もあるということです。こうして学生がいつも身近なテーマとして捉えてもらえるよう、授業内容を工夫していきたいと思っています。

—ありがとうございました



武部 匡也 先生 (心理学部助教)

受賞科目名：「心理学実験Ⅱ B (臨)」

「心理学基礎実験Ⅱ B」(対面)

—武部先生、この授業の目的や概要、授業の流れについてお聞かせください

この授業は心理学の各分野における代表的な実験を受講生自身が実際に体験して、実験手法やデータ解析、レポート作成について学ぶことを目的としています。2年生から受講可能な科目ですが一部の実験は受講生が1年生ですら同じ内容を学んでいます。その影響からか実験に興味を持ちながら、楽しんで学んでいる受講生の姿が印象的です。授業ではまず実験の説明や背景にある理論を説明します。その後数名のグループに分かれて実験者と実験協力者の両方の立場を体験してもらいます。実験では実際にデータを収集し統計解析ソフトを用いた分析も行います。最後にその分析結果に基づいて心理学のお作法に則ったレポートを作成します。

—授業構成のポイントや工夫されたことについてお聞かせください。また学生の反応はいかがでしたでしょうか

実験レポートを書きやすくなるような、もう一度書きたくなるような環境整備に最も頭を悩ませました。この授業は認定心理士資格との関連で、提出するレポートの数が多という事情があります。当然学生にとってはレポートの負担が大きく、いつも「レポートが大変だった」という評価は私の元に届きます。

対策として学生の負担を少しでも軽減するためにレポートの書き方について解説動画を作成しました。実験の説明や実施、またデータ解析など、この授業で扱う内容は多岐に渡るのでコロナ前はレポートの書き方について授業内で割く時間がどうしても短くなっていました。そこで卒業論文でも利用できるレポートの書き方について動画を作成して各自のペースで何度も見返すことのできる環境を整えました。その結果学生からは「レポート動画がわかりやすい」とか「レポートが前より上手く書けるようになった」などのコメントが届き、それが今回のベスト・クラス賞の受賞につながったと感じています。

また学生がレポートを再び書きたくなるように、受講生全員のレポートに対してのコメントをなるべく早く返すようにしました。特によく書けている点に着目してコメントして修正が必要などころには「ここを改善すれば、さらに読みやすくなる」といったポジティ

ブなコメントを意識的につけました。レポートに対するフィードバックがもらえる機会は少ないようで学生はとても喜んでくれます。「またコメントをもらおう」と前向きにレポートに取り組む原動力になってくれていると実感しています。

— 今後授業を実施する上での課題や将来の展望についてお聞かせください

課題ですが、受講生全員のレポートに毎回コメントをなるべく早くつけていく作業がかなりの負担となることはやはり否定できません。学生が喜んでくれるのでいいことなのですが、教員もより前向きにレポート

のコメントを付けられるような工夫が必要だと感じています。現在はTAの方を活用して負担を軽減する方法などを模索しているところです。また一部のレポート解説動画では丁寧に説明しすぎたために学生が主体性を失ってしまい、受け身になりすぎたこともありました。学生の主体性とレポートを書くための環境整備のバランスは今後も継続的に考えていかなければなりません。これらの課題について試行錯誤を繰り返してさらに発展させた授業ができるように努力したいと思っています。

— ありがとうございました

令和3年度(2021年度)授業改善アンケート実施概要

授業改善アンケート

Web方式移行後に落ち込んでいた回答率は徐々に上昇傾向にあり、2020年度の1期調査においては、移行年度以来となる6割の大台を超えました。2021年度は、昨年度より回答率は低下したものの、大幅な回答率の低下には至りませんでした。2021年度は、原則対面授業、一部オンライン授業の対応となったことに伴い、アンケートの実施について、教員からの学生への呼びかけを改めて強調したことにより、回答機会の確保に努めた結果が表れたものと推察されます。

〈実施期間〉

■第1期 2021年7月5日～7月17日

■第2期 2021年12月6日～12月22日※1

※1 実施期間中にシステム障害が生じたため、当初12月18日までの実施期間を延長した。

〈対象科目〉

1期は1期科目、2期は2期科目および通年科目の全科目。ただし、受講者数5人未満、ゼミ、卒論、学修の基礎、オムニバス科目、集中科目については、学部ごとにアンケート実施の可否を決定。

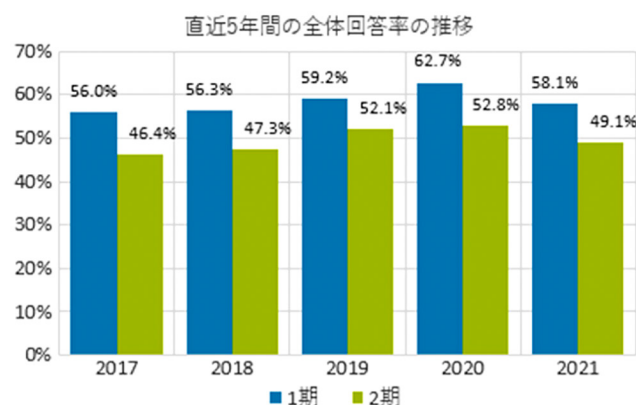
〈実施方法〉

実施期間の該当科目授業時間中に原則的に実施。スマートフォン等からWebシステム「C-Learning」(以下、「Webシステム」)より回答。

アンケートの集計結果は「授業アンケート」の報告書に、大学については学部編として、大学院については大学院編として掲載しています。

前向きな授業改善アンケートの実施・活用をめざして

教員が授業改善アンケート結果について、前向きに



受け止め、有効に活用していくためのきっかけづくりとして、IRの一環として、今回は「講義の規模が授業評価に影響する」という仮説についてデータに基づく分析を行いました。

単に授業改善アンケートの実施に留まらず、その結果の組織的な活用や、学生について単なる回答者以上の積極的な参画を目指して今後もデータ分析の結果を活用し、授業改善に寄与する取り組みについて、さらなる検討・実践を継続していきます。



令和4年度(2022年度)全学FD研修実施予定

| | 時 期 | 主催(共催) | 内 容 | 開催形態 |
|-----|---------------------------------|----------------------------|---|--------------|
| 開催済 | 6月30日(木) 14:30~16:00 | 自己点検・評価委員会 (全学教育推進センター) | 研修名: 令和4年度内部質保証および大学評価に関する全学研修会 概要: 第三期の認証評価を踏まえた大学としての今後の取組みを踏まえ、認証評価制度や内部質保証をめぐる今後の動向について説明する。また、大学評価を受審した他大学の教職員より、受審直前の大学がすべき対応やポイント等についても説明する。 | 対面& オンライン |
| 開催済 | 7月8日(金) 14:30~16:00 | 地球環境科学部 (全学教育推進センター) | 研修名: 文理融合型データサイエンス授業構築の実践事例 概要: データサイエンスの世界的なブームが今も続いている。そのブームが欧米と比べて遅れてきた日本においても、2021年に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」が文部科学省により創設されたことは記憶に新しい。初年度の昨年は、全国で78の大学・短大・高専がリテラシーレベルに認定されたが、今年度はその上位の応用基礎レベルへの申請も始まった。本講演では、演者が8年前より先行していくつかの大学で実践してきた文理融合型のデータサイエンス授業に関して、リテラシー・応用基礎の両認定レベル申請に役立つような授業実践事例を紹介するとともに、体制づくりなどのマネジメント的な側面についても言及する。 | 対面& オンライン |
| 開催済 | 7月28日(木) 14:30~16:00 | 全学教育推進センター | 研修名: 教学マネジメント推進と外部アセスメントについて ~ GPS-Academic の効果的な活用を考える ~ 概要: 教学マネジメント推進や認証評価の実施等、外部環境変化の要点を情報整理するとともに、その中で外部アセスメントをどう活用していくべきかについて考える機会とする。本学においても、学修成果の達成度の検証を行う一つの手法としてGPS-Academicを導入するため、受検率の向上をどう果たすのか、効果的な活用をどう実現していくべきか、具体事例とともに情報発信を頂くことで、知見を得る場としていく。 | オンライン |
| 開催中 | 9月16日~ 11月30日 | 図書館 (全学教育推進センター) | 研修名: インストラクショナルデザインとは 概要: インストラクショナルデザイン研究の第一人者である早稲田大学教授の向後千春先生の講演映像を共有する。今年度、本学図書館が私立大学図書館協会の研修会に関する理事校として、講演会(2022年度私立大学図書館協会東地区研究講演会)を主催した際の録画映像である。講演会で挨拶した小浜図書館長よりも、FDにも非常に参考になる内容なので、本学内の教職員にも視聴を推奨したい旨の意向があった。(オンデマンド45分) 詳細: ・インストラクショナルデザイン(ID)とは何か ・IDの重要な考え方 ・効果的な教え方 ・効率的な教え方 ・魅力的な教え方 → Streamの図書館チャンネルに公開 https://web.microsoftstream.com/video/d2d473e1-9038-4452-848e-740f0a6c426c | オンライン |
| | 10月25日(火) 14:30~16:00 | 情報環境基盤センター (全学教育推進センター) | 研修名: 教職員・学生へのセキュリティ教育について(仮題) 概要: 教職員・学生へのセキュリティ教育について(広島大学 情報メディア教育研究センター 教授 隅谷孝洋先生 講演予定) | オンライン |
| | 12月頃 ※予定 | 障害学生支援協議会 (全学教育推進センター) | 研修名: 検討中 概要: 障害者差別解消法改正法施行を2年後に控え、私立大学においても合理的配慮の提供が義務化される。法制定後、障害学生に対する支援体制の整備は一定程度進んできた反面、学生に対応する教職員の意識向上は喫緊の課題である。今回の研修では、現状における到達点と今後の課題について確認し、法施行に備える契機としたい。 | オンライン |
| | 12月17日(土) 15:00~16:30 ※予定 | 入試センター (全学教育推進センター) | 研修名: 立正大学の現在の入試状況における立ち位置と今後求められる入試制度~高大接続を踏まえた総合型選抜のあり方~(仮題) 概要: 検討中(進研アド 講演予定) | オンライン |
| | 未定 | 全学教育推進センター | 研修名: 未定 概要: 内容は今後検討予定であるが、7月に開催した「教学マネジメント推進と外部アセスメントについて~GPS-Academicの効果的な活用を考える~」に引き続き、全学教育推進センター主催で、学術的な観点を踏まえた形での研修を開催予定。 | 未定 |